



わくわく園庭日記

蒲幼稚園
No.8 R3,11,19



園庭のイチョウの葉が黄色く色づき、ハラハラと舞い落ちてきました。秋は、落ち葉や木の実など自然からの贈り物がいっぱい！子どもたちはそれぞれに持っている感性や五感を働かせて、楽しい遊びを考え出していきます。園庭の一か所に葉っぱを集めておくと、「うわ〜」と歓声をあげながら飛び込んでいく子どもたち。友だちや保育者と掛け合ったり、お気に入りの一枚を見つけたり、形や色を食べ物に見立てて遊んだり、葉っぱを使っていろいろな楽しみを見つけ始めました。



自然の中で遊ぶ

先週の金曜日、浜松城公園に出かけた子どもたち（雪組）の様子です。ブランコや滑り台などの遊具がない状況では、自ら楽しみを見つけなくてはなりません。そこに遊び方やルールが決まっているわけでもなく、自分で考えなくてはならないのです。子どもたちは、斜面を登ることを楽しんだり、芝を滑ることを面白がったり、鳥の声に耳を澄ませたりして思い思いに遊び始めました。「この木はお化けの木」なんて形から想像してみんなでキャーキャー騒ぐのも面白い！生き生きとした表情の中に子どもたちの中に眠るたくさんの可能性を感じました。

なんだろう...? あれ



耳を澄ましてみたり
目を凝らしてみたり...
自然と向き合う姿

いつも行く「かくれんぼ」や「おにごっこ」
自然の中で行くと一味違って面白い！

どこに隠れているかわかるかな?



こっちから行こうか
あっちから行こうか

昔懐かし芝生すべり



自然と始まったこの遊び。
今も昔も子どもが楽しいと感じることは変わりません！



足元が悪いから
面白いんです！

坂があると登りたくなり、
長いものを見つけると引っ張りたくなる
子どもの心理をくすぐる自然。

なんだこれ？
ツルを見つけてそれ引けやれ引け！



風が強く肌寒い日でしたが、手を握り合って寒さを伝え合うことも楽しいひと時となりました。何気ないやり取りの中に、豊かな会話が生まれていることを感じました。

「自然は人間の苗床」という言葉があるそうです。幼児期から自然と触れ合う機会を多く持つことは、**子どものみずみずしい感受性や五感を刺激し、その後の困難にも立ち向かえる豊かでたくましい心を育てます。**とはいっても、子どもが自ら自然の中に飛び込んでいけるような環境は、ほとんど残っていません。園外に出かけて自然に触れる機会を持ちたいと計画しますが**特別な日だけでなく、毎日遊ぶ園庭にもできる限りの自然を取り入れ、一つ一つの経験を積み重ねていきたい！**園庭を改造したい思いは、そこにもあるのです。



園庭改造計画は着々と進んでいます。
裏面も是非ご覧ください。